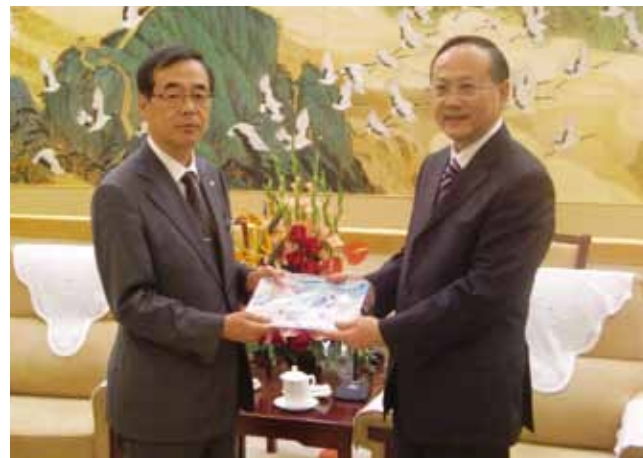


「日本・中国青年親善交流」事業

「日本・中国青年親善交流」事業は、日中平和友好条約の締結を記念し、両国の共同事業として昭和54年度から行っています。平成23年度は9月14日～28日、団長1名、副団長2名、渉外2名、団員24名の合計29名が中国を訪れ、現地青年とのディスカッション、交流、各種施設の視察、ホームステイ等を行いました。



中国人民政治協商會議全國委員會の王勝洪副秘書長(右側)と記念品の交換をする西村正紀団長(左側)



チベット民族放牧民の生活を体験し、子供に紙風船を紹介する



青海民族大学にて自然保護についてディスカッションする



蘇泊爾小学校を訪れ、両親が都市部に働きに行った留守児童と交流する



重慶市新農村にて、「村官」として活躍する若手公務員と新しい農村建設についてディスカッションする

日程

月日	主なプログラム	訪問都市
9月14日(水)	在中国日本大使館広報文化センターを表彰訪問 中華全國青年連合会主催歓迎会	北京
9月15日(木)	右安門街道社区を訪問 中国人民政治協商會議全國委員會・王勝洪副秘書長を表彰訪問	
9月16日(金)	中国人民大学にて学生と交流 国家民族事務委員會・吳仕民副主任を表彰訪問 雑技鑑賞	
9月17日(土)	青海省青年連合会・申紅興名誉主席主催歓迎会	西寧
9月18日(日)	日月山・青海湖を視察、 放牧民の生活体験、放牧民と交流	
9月19日(月)	青海湖裸鯉保護センターを訪問 青海伊佳民族服飾有限責任公司(民族服縫製販売会社)、青海金訶蔵薬業股份有限公司(チベット医薬会社)を訪問、青海省総工人連合会・蘇寧主席を表彰訪問	
9月20日(火)	蘇泊爾小学校にて留守児童と交流 土族民俗村を訪問	
9月21日(水)	タール寺を視察 青海民族大学にて学生と交流	重慶
9月22日(木)	青海チベット文化院を視察 重慶市青年連合会・周密副主席主催歓迎会	
9月23日(金)	三峡博物館を視察 渝北区空港ニュータウン・新農村を訪問	
9月23日(金) ～ 9月25日(日)	ホームステイ	
9月26日(月)	重慶市中級人民裁判所を訪問	北京
9月27日(火)	中華全國青年連合会主催歓送報告会	



少数民族の服を販売する青海伊佳民族服飾有限責任公司(民族服縫製販売会社)を視察し、世界に通用する高品質・低価格経営を学ぶ

人と人とのつながり

平成23年度「日本・中国青年親善交流」事業(第33回) 参加青年 迫田 結衣



ホストファミリーと共に(筆者中央)

にこの間には事前研修中から絶えず自分自身の中にあり、帰国後研修までの間に変化があったと感じている。団体行動の中で、自分に至らないところはたくさんあったと思うが、その中でも日々向上したいという思いがあったのは、皆からの刺激や思いやり、優しさがあったからだ。年齢も生活している場も育った環境も違う仲間たち、もちろん各々の思いや価値観は多様であった。だからこそ、衝突すること、受け入れられないこともあったが、同時にそれは多くの新しい発見の場であり、皆と真剣に話をする中で、多くのことを学ぶことができた。

この事業ではそんなかけがえのない仲間をはじめ、親と離れて暮らす子どもたちや少数民族の人々、ホームステイの家族、大学生など、普段経験できないような多様な中国の人々との出会いがあった。

「日本・韓国青年親善交流」事業

「日本・韓国青年親善交流」事業は、昭和59年の日本・韓国共同声明及び昭和60年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、両国の共同事業として昭和62年度から行っています。平成23年度は、9月14日～28日、団長1名、副団長2名、渉外2名、団員22名の合計27名が韓国を訪れ、現地青年とのディスカッション、交流、各種施設の視察、ホームステイ等を行いました。



陸軍第7師団七星展望台を訪れ、朝鮮半島情勢について理解を深める



ヤマメ工房にて、ヤマメ祭りで使う灯籠に模様付けをする



華川中学校にて、日本文化紹介で折り紙を教える



江原外国語高校にて、日本語科学生とディスカッションする



西大門刑務所歴史館を視察する

日程

月日	主なプログラム	訪問都市
9月14日(水)	国会議事堂、国会訪問者センター視察 歓迎交流夕食会	ソウル
9月15日(木)	女性家族部青少年家族政策室長表敬訪問、女性家族部主催歓迎昼食会、清溪川・光化門広場視察、非言語劇「JUMP」鑑賞	
9月16日(金)	青瓦台サランチェ視察、国立中央博物館視察	
9月16日(金) ～ 9月18日(日)	日韓青年交流会	加平
9月18日(日)	華川民族博物館視察	華川
9月19日(月)	陸軍第7師団七星展望台(DMZ)訪問、華川郡庁表敬訪問、世界平和の鐘公園、平和のダム視察ヤマメ工房訪問	
9月20日(火)	華川中学校にて文化教室 江原外国語高校にて学生と交流	
9月21日(水)	三陟市庁表敬訪問、三陟海岸レールバイク体験、道溪ガラス村視察	三陟
9月22日(木)	三陟高校にて文化教室	ソウル
9月23日(金)	仙遊島公園視察、ワールドカップ公園空公園視察	
9月23日(金) ～ 9月25日(日)	ホームステイ	
9月26日(月)	韓国青年と景福宮・ソウル市内視察	ソウル
9月27日(火)	SRセンター(ソウル市設立資源再活用予備社会的企業)視察、西大門刑務所歴史館視察 女性家族部主催歓送夕食会	



女性家族部青少年活動振興課で、青少年政策等の説明を聞く

「経験」を「力」として

平成23年度「日本・韓国青年親善交流」事業(第25回) 参加青年 小延 由香

2011年3月。東北地方を襲った東日本大震災により、日本中は深い悲しみに包まれた。震災の日から今まで、世界各国から寄せられた温かい支援は、復興を後押しする大きな力となっている。この年、韓国へ派遣されることになった私たちは、「感謝 ～全ての出会いと学べる機会に～」をスローガンとして掲げた。本事業を通じて、多くのことを経験し、心から笑った。そして、時に悩み、皆で泣いた。私たちは、当初の想像をはるかに超えて、充実した日々を歩んできた。

訪問国活動中は、平和・環境・歴史等に関連する多くの施設を見学した。なかでも、韓国と北朝鮮の間に設けられた非武装地帯(DMZ)は、最も印象深い訪問先である。「あちらに見えるのは、我々の“敵”北朝鮮です」。同胞である北朝鮮を「敵」と言い切った軍関係者の言葉を聞き、私たちは一様に大きな衝撃を受けた。それまでは漠然とした「知識」でしかなかった朝鮮半島情勢が、鮮明な「現実」として、一気に迫ってきたのだ。

15日間という短い期間ではあったが、訪問国活動中は、毎日が新しい発見の連続だった。韓国に対する理解を深めていくなかで、自

分の目で見ること、耳で聞くこと、言葉で伝えることの大切さを学んだ。そして、多くの人々との出会いを通じて、考え方や文化は違っても、お互いを尊重することが、真の「国際交流」に繋がるということを知った。

「近くて遠い国」と呼ばれた日韓両国は、近年、かつてないほどの歩み寄りを見せている。怒濤の時代を経て、ようやく芽吹いた「交流の種」。本事業で出会った仲間たちとのネットワークを大切に、「交流の種」を揺るぎない大木に育てていくことが、私たちに与えられた新しい課題だと思う。今後は、日本青年国際交流機構(IYEO)の事後活動に携わるなかで、両国関係の更なる発展に寄与していきたい。日韓の未来を担う人材として、私たちが手にした「経験」は、より豊かな関係を築いていく上で、大きな「力」になると信じている。



ホストファミリーと共に(筆者右)